



図書館 めくるくん通信

図書館 ☎ 69♦3706



図書館へ行こう

◆ブラウジングコーナー

図書館正面玄関に入ってすぐのコーナーです。当日の新聞や新刊雑誌があり、ゆっくりと読書の楽しみを味わうことができます。

★新聞・新刊雑誌

新聞は当日分のほか前日夕刊もこのコーナーに。図書館休館日の翌日は前日分も置いてあります。

新刊雑誌のうちじっくり読んでいただくタイプのもの(文芸誌など)は2階一般室の入口とカウンター前にあります。児童向けの雑誌は児童室にあります。

★バックナンバーもどうぞ

過去の新聞、雑誌もご利用ください。新聞は職員に気軽にお声掛けください♪



図書館に入った本

毎月1,000冊以上の本が入ります。
一部をご紹介します♪

『マイ・ディア・ポリスマン』

小路 幸也/著 詳伝社

『スープ屋しずくの謎解き朝ごはん 1』

友井 羊/著 宝島社

『嵯峨野花譜』

葉室 麟/著 文藝春秋

『猫が見ていた』

湊 かなえ ほか/著 文藝春秋

『破れかぶれの幸福』

佐藤 愛子/著 青志社

『あいちのおかず』

服部 一景/編著 開港舎

『和えるおかず』

坂田 阿希子/著 世界文化社

『〈図解〉「疲れない身体」をつくる本』

齋藤 孝/著 PHPエディターズ・グループ

『世界一まじめなおしっこ研究所』

金子 大輔/著 保育社

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時は
お気軽に職員にお尋ねください。

フジツボの秘密

読む



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68♦2059

■水族館は耐震工事中です

水族館は9月4日から年内いっばいの間、耐震工事のため休館しています。休館していても生き物たちは水槽で暮らしているので世話や仕事は多くあります。お客さんが来ないので必然的に入館料による収入がなく、貯金を崩しつつスタッフ一同賃相につつましく口数少なく毎日職務遂行し、時々じっと手を見つめたりしています。

そんな中、休館中だからこそでき

る仕事も多くあり先日、このところめっきり推進速度の遅くなった所を船「たけす丸」を港の陸地に引き上げてメンテナンスをしました。

■船が進まない原因生物

思った通り、たけす丸の船底には8万粒くらいのおびただしい量のフジツボが付着しており、これが船の健全なる進行を阻害していたのです。アクセル全開でもなかなか進まなかったですから。

9月のまだ暑い日中に2時間かけて全てのフジツボを船底からへらではがしました。安住の地として船

■フジツボの生態

海で必ず見かけられるお馴染みのフジツボは、ああ見えて貝ではなくエビやカニの仲間です。これを言うと大抵の人は驚くのでいつも解説するときの最後の話としています。子供のころはプランクトンで浮遊生活をし、その後、岩などに固着、一度固着するとそこから引越はできない。あ、やっぱりあっちのほうが良かった、と思ってもダメである。固着す

ると殻から手のような器官(蔓脚)を出し入れし、おいでおいでするようなしぐさでとらえた水中のプランクトンを食べます。

集団で固着する習性があり一匹オオカミ(一匹フジツボ)で暮らすというのではないようです。驚くべきことに雌雄同体。固着した周りが同性ばかりだと生活が潤わないですからね。自分自身単体で生殖してクロールを作ることではなく、近隣の他個体と接触して殻内で卵を守り出産します。浅瀬から深海まで多くの種類があり、海外には子供のゲンコツほどのものもいます。岩手県での大学生時代、アカフジツボを塩ゆでして食べた経験がありますが、やはりエビカニに似た味で、なかなかおいしかったです。